

「人生のやる気デザイン」研究部会（第16回）

日時：2021年9月13日（月）13:00～15:30

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：渡辺弥生・榎本淳子・杉本希映・中井大介・中谷素之 各兼任研究員

吉久知延所長・山口和人・金沢千秋・泉水里香（野間教育研究所事務局）

欠席：倉住友恵

内容：（1）渡辺研究員：研究報告

1. 法政大学のオンライン授業で、渡辺ゼミの学生たちに、ソーシャル・スキル・トレーニングの授業の一環としてユーチューブに映像をアップさせた
 - ・大学3、4年生をグループに分ける／「ありがとう」「なかよし」などのソーシャル・スキル・トレーニングとして動画を作らせる／BGMを使ったり、ロールプレイングゲーム形式にしたり、表現は自由／ユーチューブ大会にして、2021年度優秀作品を選んだ
2. 「ソーシャル・エモーショナルな切り口からのやる気の支援」
 - ①ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）の定義
 - ②SELのバックグラウンド
 - ③アメリカでのSEL実施の実態

（2）榎本研究員：「日本の成人先天性心疾患患者は他国と比較してなぜ生活に満足していないのか？」

◆今回のテーマ：疾病をもつ人の生涯発達、病みの軌跡を考える

- ・Aさん（30代、女性、中等程度の疾患）とBさん（30代、男性、軽症～中等程度の疾患）という2人の先天性心疾患患者の事例を取り上げ、幼稚園～児童期～青年期～成人期と、その人生の軌跡を対比し、「やる気」を含めた現状と将来を考える
- ・外からは見えにくい心疾患の特徴で「社会の通常の人と同じ振る舞いを要求される」ことが葛藤を生む。無理解、諦め、劣等感、現実の受け入れ、視野の広がり、適応 etc.
- ・世の中にはさまざまな人がいることへの気づき
- ・病気の特徴は絶えず変化する。病気のもつ不確実性や曖昧さによって、アイデンティティの適応プロセス＝「折り合いをつける」ことを学び、「自分らしい生き方」を模索
- ・質疑応答：他の疾患の例との比較、各疾患の心理的特徴は？／事例数／事例のチョイスが難しい／時代状況も必要 etc.

・次回研究会 10月25日（月）13:00～